

天プラの挑戦 1.

天プラはなにを目指すか

高梨直紘、平松正顕 (東京大学)、塚田健 (東京学芸大学)、tenpla.net

The TENPLA Project 1. Where we are going to?

Naohiro Takanashi, Masa'aki Hiramatsu, (The University of Tokyo),

Ken Tsukada (Tokyo Gakugei University), and tenpla.net

Abstract

The Tenpla Project is one of a unique style of science communication started from 2003. The group is consistent with students, staff of Planetariums, Museums, and citizens who are interested with enjoying Astronomy with peoples. In this paper, we present what we were doing, what we are thinking, where we are going to. See also papers "The Tenpla Project 2-6".

1. 概要

「天プラ」は、天文学の普及に興味を持つ人間から構成される天文学普及プロジェクトである。2003年に活動を開始して以来、メーリングリストを中心とした活動を行っており、現在では200名近いメンバーを抱えている。本稿では、天プラの活動の変遷を、時系列に沿って紹介することによって、なぜ、この時代に「天プラ」という“場”が学生らの手によって自己組織化したのか、その背景について探りたい。

2. 天プラとは

天プラは、天文学普及に興味を持った人間が集まったゆるやかなグループであり、メーリングリストを中心に活動を行っている。よく誤解されるが、NPOや学会、研究会のようなしっかりとした組織ではなく、メーリングリストに参加していることだけが要件である、非常にゆるやかなグループである。基本的な活動の形式としては、メーリングリスト上で誰かが提案した活動に対し、賛同する人間が集まってワーキンググループを形成し、プロジェクトが推進される形となっている。ワーキンググループには、例えば「かるた」「タイピングゲーム：宇宙打」「ポッドキャスト」「地域」「ATP」「病院」「カフェ」など、多岐にわたる内容であり、天プラというグループを特徴づけている。やりたいことがある人間が、自由に力を発揮できる環境、それが天プラの本質であるともいえる。2006年8月4日現在、天プラのメーリングリストには199名が参加している。その約半数は学生である。

3. 天プラの歴史

「天プラ」の活動歴の中でも特にエポックメイキングな出来事を順に示すことで、天プラがどのようなグループであるのかの紹介としたい。

2003年

7月 ウェブサイトの立ち上げ / 夏の学校に参加

天プラの活動開始。天文天体物理若手の会の主催する夏の学校にて、プラネタリウムを取り巻く状況の分析および学生が普及活動に関わる可能性についての発表を行い、同志を募った。なお、当初はプラネタリウムと天文学を専攻する学生の協力を想定していたため、「天文学とプラネタリウム」、略して“天プラ”というグループ名を名乗った。

8月 第1回プラネタリウム見学会の開催

実際に施設を見学し、そのスタッフと議論を行うことで、具体的にどのように我々が天文系教育普及施設と関わり、協力する事が出来るのかが見えやすくなる。このような見学会は、その後も不定期に行われている。

12月 日本プラネタリウム協会 (JPS) 研究会に参加

天文系教育普及施設のひとつであるプラネタリウムと、天文学普及を志す学生らはどのような協力が可能なのかを探るべく、プラネタリウム業界の集会に参加した。JPS 以外にも、日本プラネタリウム研究会などの集会にも参加し、様々な意見交換を行った。

2005年

5月 「星ナビ」にて連載開始

アストロアーツ社の発行する天文雑誌「星ナビ」にて、ミニコラムの連載を開始する。

6月 さいたま市宇宙劇場での天文講演会に協力

天プラが絡んだ初めてのイベントが行われる。このイベントを皮切りに、様々な科学館・プラネタリウムにて天文教室などのイベントが行われた。

10月 日産科学振興財団からの助成決定

天文トイレットペーパー (ATP) 他の制作に対する助成を受けることになる。これによって、経済的な制約が緩和し (そして、緩和させる手法に自信を持ち)、活動の幅が広がることとなった。

2005年

2月 ATP の販売開始

天文トイレットペーパーの自費制作、販売を開始する。詳細は ATP についての報告文を参照されたい。

10月 サイエンスカフェの開催

科学を楽しむ新しい形のひとつである「サイエンスカフェ」を、北海道大学と共催という形で札幌市で実施した。詳細はサイエンスカフェについての報告文を参照されたい。

12月 プロペラ星空観望会の開催

調布飛行場内にある「プロペラカフェ」と共同で観望会を開催した。この観望会を手始めに、これまでの“常識”にはないコラボレーションを模索した。

2006年

2月 科学コミュニケーションシンポジウムにて講演

KEKの主宰する科学コミュニケーション研究会（総研大葉山キャンパス）にて、天プラの取り組みを講演する。天文学の分野に留まらず、天プラの活動は科学コミュニケーションの分野においてユニークな存在であることを再認識する。

3月 東京医科歯科大学付属病院にて天文教室の開催

普及活動のバリアフリー化の試みのひとつとして、入院児童を対象とした天文教室を開催した。

3月 第1回「楽しむ科学コンクール」受賞

地域密着型の普及活動モデルの模索というテーマで、平成基礎科学財団の主催するコンクールにて受賞する。

4月 三鷹第四小学校あすとろクラブ始動

小学校低学年を中心とした天文クラブ活動の運営を開始した。

6月 みたか宇宙塾の開講

育児中の母親を主対象とした天文教室を開始した。

4. 天プラの活動方針

前章で述べたような変遷を経て、現在の天プラの動方針は次のように集約することが出来る。

- ・ 様々な専門性を持った人間のコラボレーションに基づき、
- ・ 既存の概念にとらわれない自由な発想で、
- ・ 学生（あるいは自分の立場で）しか出来ない、
- ・ やっていて楽しい活動を行う

日本では、天文教育普及研究会、天文学会など様々な組織による天文学の普及活動が活発に行われている。天プラでは、そのような既存の組織ではフォローできないニッチを探しだし、その時その時の状況をしっかりと見極めながら、一般市民の感覚から離れすぎないことに注意しつつ、ユニークな活動を行っている。

5. 天プラの拡大

初期には、「天文学を専攻する学生」と「プラネタリウムなど科学系施設の職員」のコラボレーションを想定していたが、現在では、「天文学の普及に興味がある人」なら誰でも welcome という風に門戸を拡大している。そのため、現在では天文系、教育系のメンバーだけではなく、芸術系の学生や市民ボランティア、はたまた行政、企業など様々な分野のメンバーが天プラのメンバーリングリストには参加している。

拡大したのはメンバーだけではない。活動の対象も、初期の頃は天文ファンなど、既に十分天文学に興味を持った人間を対象に活動を行っていたが、徐々に「浅く広く」対象を広げつつある。天文学の魅力に触れる機会は何人にも等しく平等であるべきだという考えが背景にある。

5. 天プラの将来

最初にも述べたように、天プラはしっかりとした構造をもった組織ではない。現在は、コアとなる中心メンバーによって活動が維持されているが、そのメンバーが学生だからこそ活動が維持されている面も大きい。それらの学生が学生でなくなった後は、学生でない立場で出来る活動へと発展的解消を遂げるであろう。そういった意味でも、現在の天プラは、時代背景を色濃く反映した組織であるともいえる。